

第47期（令和6年度）事業の概要及び 代表取締役社長の変更について

令和7年6月27日
千葉都市モノレール株式会社

◇ 事業の概要

当社は千葉市内において、市街中心部と住宅地及び臨海部を2路線15.2kmで結ぶ千葉都市モノレールの運行を担っており、安全を最優先に、快適・安心な輸送サービスの提供に努め、地域の発展に寄与しています。

当期の業績は、年間輸送人員が延べ2,016万人（前期比105.25%）、一日乗車人員が55,250人（前期比105.53%）となりました。

また、運輸収入は35億13百万円（前期比105.00%）、運輸雑収は2億19百万円（前期比110.91%）となり、営業収益は37億33百万円（前期比105.33%）となりました。

なお、輸送人員・運輸収入ともに、過去最高を記録しました。

定期外、定期（通勤・通学）ともにコロナ影響前の水準を超える利用者数となっており、千葉公園の「芝庭」が開業したことや、1号線沿線でのマンション開発や2号線沿線での宅地開発も引き続き進んでいることから、新規の住民が増加していることなどが主な要因であると分析しております。

定期外は、前期比104.49%（9,003千人）、令和元年度比102.02%となりました。

定期は、通勤が前期比105.44%（9,152千人）、令和元年度比104.61%、通学が前期比107.82%（2,010千人）、令和元年度比109.44%となり、定期全体では前期比105.86%（令和元年度比105.46%）となりました。

一方、営業費については、給与のベースアップ等による人件費の増加のほか、労務単価等の上昇による委託業務費の増加、ATC/TD装置や駅務機器更新に伴う除却費の増加、自動改札機や車両更新に伴う減価償却費の増加により、全体として35億46百万円（前期比108.46%）となっています。

これらのことから、営業利益は1億86百万円、経常利益は2億53百万円、当期純利益は2億98百万円となりました。

そのような状況において、中期経営計画（2022-2024）の基本戦略である「安全・安定輸送の継続」、「困難に打ち勝つ『企業力』の強化」及び「誰にでもやさしいサービスの提供」の3項目を着実に推進し、お客様が安心してご利用できる環境の構築や利用促進等に努めてまいりました。

1. 安全・安定輸送の継続

安全・安定輸送の継続への取り組みとして、「令和6年度 安全重点施策」に掲げた「軌道桁・駅舎・車両等の経年劣化設備の保守点検、更新」、「安全管理体制の強化」及び「教育訓練等の実施によ

る安全意識の向上」の3項目を柱として次の施策を推進しました。

軌道桁・駅舎・車両等の経年劣化設備の保守点検、更新については、保守点検では、千葉市長寿命化修繕計画に基づいた更新計画による駅舎屋根更新工事や塗替塗装工事、当社修繕計画による車両基地の軌道桁検査路塗装工事や車両5編成分の法定検査を実施しました。

設備更新については、千葉駅分岐器ラインシャフトの更新、千葉みなと駅ATC/TD装置の更新、高圧配電線の更新、改札機及び電気室の更新、転落防止床トップコートの更新、駅ホーム床及び壁の全面改修、バリアフリー化を推進するための段差識別表示の設置等を実施しました。これらの更新等については、新たな手法の検討を含めて引き続き取り組んでまいります。

安全管理体制の強化については、輸送安全総点検や内部監査による当社の安全管理体制の確認、安全対策会議（マネジメントレビュー）における年間施策の振り返りを実施するほか、役員による定期的な職場巡視やヒヤリ・ハット報告の促進に向けた職場環境及び社員意識の強化を図る等、安全管理体制の充実と継続的改善を推進しました。

教育訓練等の実施による安全意識の向上については、事故自然災害など異常時の対応力強化として、3.11地震災害対策訓練、異常時等対応訓練、輸送の安全確保に向けた教育訓練等の各種訓練を実施し、安全意識を向上させるために運輸安全マネジメントセミナー、運輸防災マネジメントセミナー、内部監査員研修等セミナーや研修への参加を推奨しました。

今後も、各種災害等に備えた教育や訓練を継続して実施し、予期せぬ災害発生時にも臨機応変に対応できる体制作りに努めます。

2. 困難に打ち勝つ『企業力』の強化

将来を見据えた経営体質の強化については、小池社長自らが社員に対して、経営講習会を開催し、収入確保と経費節減の重要性等を改めて説きました。また、社員教育の充実を目的として、情報セキュリティやタイムマネジメント等に関する各種研修を実施して社員の教育活動を推進しました。

また、千葉市のカーボンニュートラル施策であるエネルギーシェアリングタウン構想への協力や、デコ活宣言を実施する等、環境に優しいモノレールへの利用転換促進を進めております。

増収を見据えた新たな利用促進については、千葉市等と連携して、外国人に向けた貸切列車の運行や、千葉市への交換留学生に対する見学会を実施する等、訪日外国人の取り込みに注力しました。

沿線施設との連携においては、千葉公園の再整備により芝庭がオープンした際には、記念式典に出席しました。この芝庭がオープンした影響により、モノレールの乗降者数も大幅に増加しました。

利用圏域の拡大については、千葉市都市局都市部との協業により、当社と千葉中央バス株式会社が企画するデジタルチケットの発売や、グリーンスローモビリティとの連携、パーク＆ライドの検討等、様々な活動を実施しているほか、地域限定旅行業では、京成バスや近郊のいちご農園とのコラボや車両基地見学をセットにしたツアーが好評を得ており、新規顧客の開拓にも積極的に取り組んでいます。

3. 誰にでもやさしいサービスの提供

お客様へのサービス向上の取り組みとして、ソフト面では季節を感じる暖かみのある駅装飾の実施、接客研修やサービス介助士資格の推進、ハード面では駅照明のLED照明化の推進、駅階段の段差識別表示、ホーム縁端部の滑り止め更新工事及び内方線設置工事等、環境やバリアフリーを考慮した対策も計画的に推進しています。

◇ 輸送人員及び運輸収入

		第42期 (令和元年度)	第46期 (令和5年度)	第47期 (令和6年度)	対第42期比 (令和元年度)	対第46期比 (令和5年度)	
営業日数(日)		366	366	365	—	—	
輸送人員(千人)	定期外	8,824	8,615	9,003	102.02%	104.49%	
	定期	通勤	8,748	8,679	9,152	104.61%	105.44%
		通学	1,837	1,865	2,010	109.44%	107.82%
		計	10,585	10,544	11,163	105.45%	105.86%
	合計	19,410	19,160	20,166	103.89%	105.25%	
運輸収入(百万円)	定期外	1,973	1,946	2,035	103.14%	104.57%	
	定期	通勤	1,215	1,207	1,271	104.63%	105.33%
		通学	190	192	206	108.56%	107.30%
		計	1,405	1,400	1,478	105.16%	105.60%
	合計	3,379	3,346	3,513	103.98%	105.00%	
運輸雑収(百万円)		197	197	219	111.21%	110.91%	
収入合計(百万円)		3,576	3,544	3,733	104.38%	105.33%	

※ 区分毎に千人未満または百万円未満切り捨てにより、計・合計・増減が一致しない場合があります。

◇ 代表取締役社長の変更

代表取締役社長 ^{やま}山 ^{もと}元 ^{たか}隆 ^し司 昭和39年6月26日生(満61歳)

主な経歴 平成27年4月 千葉市総務局総務部長
 平成30年4月 同 こども未来局長
 平成31年4月 同 保健福祉局長
 令和4年4月 同 財政局長(令和7年3月退職)

なお、代表取締役社長 小池浩和 は株主総会終結の時をもって退任いたしました。
 在任中に賜りましたご厚情に対し御礼申し上げます。

その他の決算資料は、弊社ホームページ決算概要をご参照ください。

<https://chiba-monorail.co.jp/index.php/company-info/kessan/>

以上

<お問い合わせ先>

千葉都市モノレール株式会社 総務部経営企画課
 電話 043-287-8216